

三歳の幼児が、高等数学をすらすら

七、八年前、テレビで、三歳の幼児が、大学生でもなかなか解くことのできない高等数学の問題を、すらすらと解いて見せ、スタジオでその問題を出した数学の大学教授を驚かしたことがあります。その幼児の名前を、金雄鎔と言います。韓国の子供です。

雄鎔君の両親は、二人とも大学教授ですから、良い素質を受けついでいたことでしょう。しかし、素質が良いだけで、高等数学が解けるようになるはずがありません。それにはそれだけの教育が、三歳までの間に行われていたからです。

雄鎔君は、生後わずかに八か月の時から、毎日、漢字を教えられたのです。初めは一日に一字、それが二字、三字となり、やがて六十枚の漢字カードを、わずかに二日で覚えるほどになり、三歳になった時には、どんな本でもばりばりと読み、それが理解できるようになっていたのです。

雄鎔君は、その後、七歳でアメリカの大学を受験して合格し、今ではアメリカで大学生活を送っています。何という驚くべき天才もいるものか

など、だれもがきっとそう思い、これほどの天才は、広い世界にも、何百年に一人出るか出ないほどの大天才ではないだろうか、と考えるに違いありません。

しかし、私はそうは考えていません。雄鎔君は確かに素質が優れていることには違いない、と思います。でも、雄鎔君が乳幼児期に受けたような教育(基本的には“漢字教育”)を受ければ、どんな幼児でも、それに近い能力を身に付けることができます。また、どんな幼児でも、そのような教育を受け入れる能力を備えているものです。……私は、そのように確信しています。

私がそう確信しているのには、勿論、それだけの理由があるのです。その理由を、順を追ってお話したいと思います。